



# お諏訪さま詣で

全国1万有余の諏訪神社の総本社

信州諏訪  
上諏訪温泉

お諏訪さま、諏訪大明神と呼ばれ、  
全國津々浦々の人々から信仰を集める諏訪大社。

御神徳の数々は枚挙にいとまがなく、殊に水の神、狩獵農耕の神、

また武家の守護神として尊ばれ、歴代天皇をはじめ、

四季豊かな自然の恵みにくつろぐ。歴史と情緒を味わう旅に、

ぜひ上諏訪温泉へお出かけください。



# 諏訪大社

信濃国一之宮とよばれる諏訪大社は、諏訪市の上社本宮と茅野市の上社前宮、下諏訪町の下社秋宮と下社春宮の二社四宮からなり、氏子は諏訪地方の6市町村にわたっています。歴代の天皇や武将からも深く崇拝され、多くの人々が諸国へ分霊を持ち帰り祀ったことから、諏訪信仰は各地へと広りました。現在では、分社だけでも沖縄県を除く全国46都道府県に5,000社以上、摂社・末社を加えるとその数実に1万有余社を数えています。

## 上社



本宮



前宮



秋宮



春宮

御神山とされる守屋山の山麓で、静かな林に抱かれた鎮座。諏訪大社の祭事の中心であり、参拝者も年間を通して絶えることがありません。また、四宮の中でも最も貴重な建造物が多く現存。神体山をお祀りするというのも大きな特徴で、祭祀研究の上からも注目されています。

本宮の東約2kmにあり、その昔上社祭祀の中心をなしていました。本殿は豊かな水や日照に恵まれた高台にあり、ご祭神が最初に居を構えられた諏訪信仰発祥の地と伝えられています。現存する数少ない建物は、昭和7年(1932)伊勢神宮のご用材を用い、建てられたものです。

その昔から、旧中山道と甲州街道が交わる交通の要に鎮座しています。社殿の構造は秋宮と同じですが、細部に施された彫刻はまったく異質。これは、秋宮を手掛けた立川流派とともに江戸時代を代表する大隈流派の宮大工が、諏訪藩より同じ絵図面を与えられ、競い合うように建てたためです。

秋宮から西へ約1km、旧中山道沿いの静かな森に位置。社殿の構造は秋宮と同じですが、細部に施された彫刻はまったく異質。これは、秋宮を手掛けた立川流派とともに江戸時代を代表する大隈流派の宮大工が、諏訪藩より同じ絵図面を与えられ、競い合うように建てたためです。



■御神渡り（おみわたり）

結氷した湖面の割れ目がせり上がり、南北に2本、東西に1本の筋が現れる「御神渡り」。諏訪湖南岸にある諏訪大社上社の男神が、北岸にある下社の女神に会いに行つた跡だとされる神秘的な自然現象です。



■御柱祭（おんばしらさい）

御柱は、上社、下社それぞれに、山から直徑約1m、長さ約17m、重さ12tにもなる巨木を8本ずつ伐り出し、木遣り唄に合わせて、人の力のみで曳きくだり、4つの社の4隅に建てる諏訪大社最大の神事で、7年毎の寅と申の年に行われます。

祭は4月の「山出し」と5月の「里曳き」に分かれ、山出しへは、大観衆が見守るなか巨木が次々と急坂を下る「木落し」、雪解けの水で柱を清める「川越し」など、諏訪の男の度胸試しにふさわしい壯観な見せ場が、里曳きでは、騎馬行列や長持ち、花笠踊りなど絢爛な時代絵巻が繰り広げられます。



## ■ 諏訪湖エリアおもてなし向上推進会議

〒392-8555 長野県諏訪市小和田南14-7 諏訪商工会議所内  
TEL.0266-52-2155 FAX.0266-57-1010

## ■ 諏訪湖温泉旅館組合

〒392-0021 長野県諏訪市上川1丁目1662番地  
TEL.0266-52-7155 FAX.0266-58-9613  
URL <http://www.suwako-onsen.com/>



諏訪大社  
下社・秋宮

鳥居をくぐると正面に下社の御神木の一つ、樹齢八百年の大杉。その奥に、天保六年（一八三五）立川和四郎二代目富昌が手掛けた神楽殿があり、巨大な注連縄を飾り、両脇に身長一・七メートル、青銅製では日本一と言われる狛犬を従えています。さらに奥に行くに従つて、安永十年（一七八一）初代立川和四郎富棟の手による幣拝殿と左右片拝殿、御宝殿、下社の最も重要な場所であり御神木を祀る御神座が並んでいます。建物の多くは春宮と合わせて国の重要文化財に指定され、毎年二月と八月には春宮と秋宮を神様が行き来する遷座祭が行われます。

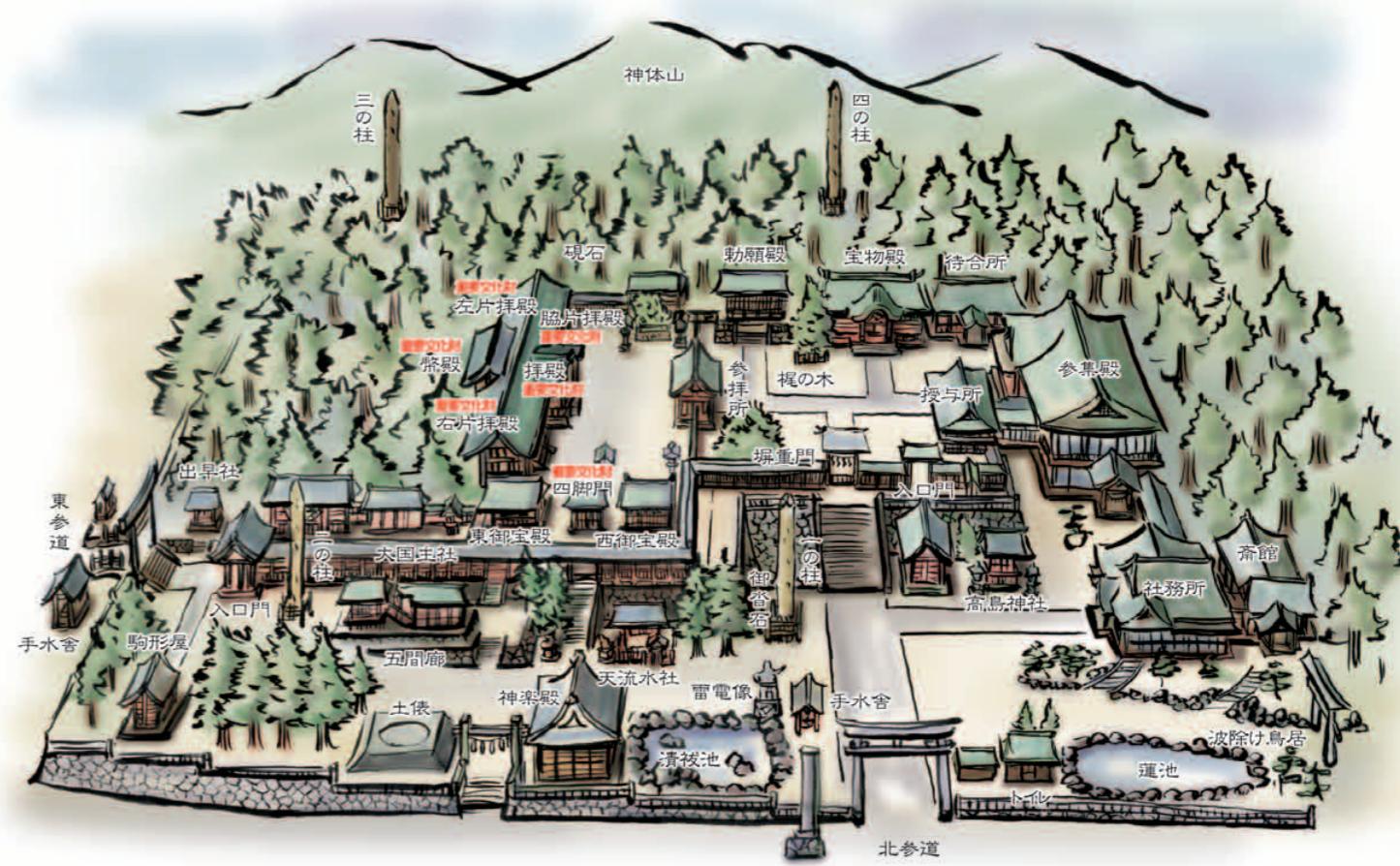


ご祭神として、信濃の国造りをしたと伝えられる建御名方命(たけみなかたのみこと 男神)と八坂刀売命(やさかとめのみこと 妃神)を祀りますが、古くから下社には女神が、という信仰も伝わっており、同社には御兄神の八重事代主命(やえことしろぬしのみこと)も合祀されています。式年造営御柱大祭「おんばしら」では、勇猛な木落としが行われる一方、遷座祭のお舟祭、筒粥の神事など雅な信仰や祭も残っています。

秋宮は、鳥居から見て最後方の御神座に祀られた一位(イチイ)をご神木(ご神体)としています。また、山王閣の東に明治維新以前は神宮寺があったと伝えられています。下社の大祝は金刺氏で、武士団化した一族には弓馬の名手が多く、鎌倉幕府とも強い信頼関係を結んでいました。

- TEL 0266-27-8035 (下社秋宮社務所)
- 参拝自由 ■ 宝物殿500円 (小中学生300円)
- 駐車場無料80台 (バス可) トイレあり

諏訪大社は、本殿を持たない「諏訪造り」という独特の形で構成されています。なかでも本宮はその代表的なもの。成立は約千五百年、二千年前とされ、昔は極彩色の建物が並んでいましたが、天正十一年（一五八二）織田信長の諏訪進攻により、ほとんどの建物が焼失。その後、天保九年（一八三八）二代目立川和四郎富昌の手によつて現在の社殿を再建。細部にまで見事な彫刻が施された社殿は、立川流を代表する傑作といわれています。その他、徳川家康が造営寄進した四脚門、神楽殿など貴重な建造物が多く、国の重要文化財に指定されています。



すわたいしやかみしや  
諏訪大社上社 ほんみや  
本宮

ご祭神として、信濃の国造りをしたと伝えられる建御名方命(たけみなかたのみこと 男神)と八坂刀売命(やさかとめのみこと 妃神)を祀りますが、古くから上社には男神が、という信仰も伝わっています。建造物が最も多く残る本宮は、守屋山と硯石をご神体とする独特な古代祭祀の形式を色濃くとどめ、式年造営御柱大祭「おんばしら」のほか、蛙狩神事、御頭祭など特殊な神事や祭が今も執り行われています。明治維新までは近くに神宮寺があり、普賢堂、五重塔はじめ、たくさんの院坊が建ち並ぶ門前町を形成していました。本宮の東約2kmにある前宮は、祭神が最初に居を構えた場所とされ、諏訪氏の大祝(おおほううり=現人神の最高神官)就任の儀式が行われた鶴冠社という社があります。

- TEL 0266-52-1919 (上社本宮社務所)
  - 参拝自由
  - 宝物殿 500円 (小中学生300円)
  - 駐車場無料 60台 (バス可) トイレあり



●交通のご案内  
JR中央本線上諏訪駅からタクシーで15分  
中央自動車道諏訪J.Cより、車で5分